

第二章活用事例

「カタツムリの歩みのように」

— 北村 西望 —

小学校五・六年生版

「心たくましく」

p.72
s
p.79

【主題名】

目標を立ててくじけず努力する

第五学年及び第六学年 1-②

「より高い目標を立て、希望と勇気をもってくじけないで努力しよう。」

【ねらい】 より高い目標を立て、困難にくじけず粘り強く一歩一歩努力しより高い意欲を育てる。

《ねらいとする道徳的価値》『1』五・六年生の時期の児童は、夢や希望をふくらませたり、ある人物の生き方にあこがれたりするようになります。困難に直面しても希望をもち努力し続け、くじけることなく自分の理想を実現させた人物たちの生き方にふれさせながら、今の自分と将来の自分を真剣に見つめさせ、自分もまた勇気と希望をもって努力し続けていくことする意欲を育てることが大切です。

導入



「この像を知っていますか。」

○長崎の平和記念公園にある「平和祈念像」の映像や写真を提示し、児童に資料への興味をもたせましょう。

○先生が「カタツムリの歩みのように」を読み聞かせましょう。



「誰もいない部屋で布団をかぶって泣いたとき、西望はどのような気持ちだったでしょうか。」

○二人の仲間のちよう刻と自分の作品との評価の違いに着目させ、くじけそうになっている西望の心情を捉えさせましょう。



『おめでどうござります。二等賞ですよ。』と記者に言われたとき、西望はどのような気持ちだったでしょうか。」

○「ぐっと胸のおくからこみ上げてくる」という部分に着目させ、努力が実を結んだときの喜びの心情を捉えさせましょう。



『さういえばわたしもー。』とこれまでの人生をふり返りながら、西望はどのようなことを考えたのでしょうか。」

中心発問

○西望がカタツムリと自分自身とを重ね合わせていることに着目させ、これまでの人生をどのように見つめ直しているかを考えさせましょう。

《評価》 挫折しそうになってもくじけずに粘り強く努力し続けていくことの大切さに気付くことができたか。



「今までに、あきらめずに努力を続けて、高い目標を達成したことはありませんか。そのとき、どのような気持ちでしたか。」

○努力し続けてきたことや目標を達成したことなどについて、自分の体験をふり返らせ、そのときの達成感をこれからの生活への意欲につなげさせましょう。

○教師自身が、途中であきらめずに努力を続けやり遂げた体験を、子供たちに語りましょう。

○「心たくましく」 p.4 の中山博道の言葉をみんなで読み、目標に向けて努力する大切さを確かめて授業のまとめにしましょう。

板書例

カタツムリの歩みのように — 北村 西望 —

平和祈念像の
写真

北村西望の
写真

だれもいない部屋でふとんをかぶって泣いたとき、西望はどのような気持ちだったでしょうか。

- ここまで努力してきたけれど、自分にはよい作品を作る力がないのだろうか。
- あの二人に追いつくことは無理なのだ。
- もうちよう刻家になる夢はあきらめられたほうがいいのか。

布団をかぶっている西望の挿絵

「おめでどうござります。二等賞ですよ。」と記者に言われたとき、西望はどのような気持ちだったでしょうか。

- これまで何度もやめてしまおうと思ったが、あきらめずに努力を続けてきてよかった。
- やっと自分の作品がみとめられた。これも、あの二人がいてくれたからかもしれない。
- 苦しい思いをしてきたから、今の自分があるのだ。

「さういえばわたしもー。」とこれまでの人生をふり返りながら、西望はどのようなことを考えたでしょうか。

- ゆっくりとでも、進み続けることで、目指す場所にたどりつけるのだ。
- 自分もこのカタツムリと同じように、とちゅうであきらめず、進み続けてこられた。
- カタツムリがさらに進み続けていくように、わたしもまだまだ努力し続けていこう。

今までに、あきらめずに努力を続けて、高い目標を達成したことはありませんか。そのとき、どのような気持ちでしたか。

- にがてな算数を分かるようにするために、授業にしんげんに取り組んで、分からないところは先生や友だちに聞いて、毎日一時間、家で復習した。この前のテストではじめて90点をとれて、もっともつとがんばろうという気持ちになった。
- マラソン大会でゆうしようするために、毎朝、三十分間のランニングを続けてきた。結果は二位だったが、あきらめずにやりとげることができて、自信になった。

《評価》 より高い目標を立て、困難にくじけず粘り強く一歩一歩努力しようとする意欲を育むことができたか。

終末

展開

導入